



天狗尾根

第1日目 雨／晴れ

前夜、雨の中、美し森の駐車場まで車を入れる。シャーベット状になった雪がたくさん残っていた。

翌朝も雪まじりの雨が降っており、閉まっている売店の軒先でパッキングして地獄谷へと林道を歩く。気温が高いのか、林道の雪が解けてぬかるんでいる。やがて林道を外れて沢沿いに進む。雪がだいぶ多くなってきて歩きにくい。堰堤をいくつか越え、雪に埋まった沢を右へ左へ

と渡りながら進む。そのうち、沢に水が現れ渡渉を余儀なくされる。ただでさえ渡渉は苦手なのに、雪に岩なども隠されているため、足を置く場所の見極めがつかなくなったり、雪の上に置いたつもりが、そのまま雪を突き抜け、何度か靴が水に沈んだりした。



見た目はきれいだけど…

そんなことに手間取り、消耗し、出合にたどり着いたのがお昼過ぎ…。疲れてしまって、そこから荷を背負って尾根に上がる気力がなく、明日はここにテント装備をデポして空荷で行くことにした。テント設営後、尾根の取付の下見に行く。テントは最後の渡渉を避けて小屋の少し手前に張った。夜は渡渉で濡らした靴下が冷え、あまりの冷たさに目が覚めて靴下を替えた。

(タイム) 7:53 美し森⑩～8:55 天女山分岐～13:00 出合小屋

第2日目 晴れ

翌朝は冷え込み、昨日は水が流れていて渡渉に苦労した所もがっちり凍っていてラクに進めた。昨日下見した尾根末端から、赤岳沢沿いにトレースがあり、そのトレースを追うかたちで尾根に上がる。尾根を進んで高度を上げると積雪量も増えてきてラッセルとなる。交替で樹林帯をラッセルしながら進む。やがて樹林を抜けて明るい尾根を進むと、目の前に階段状の草付の岩場が現れる。先を行っていた相方がそのまま登り始める。ところが、1段上がったところで「あ、結構わるい…」…えーっ！しかしロープはこちらが持っているのですそのまま登るしかない。おいおいおい〜と思いつつなんとか上がる。やれやれ…

尾根上も雪が結構あり、トレースは所どころ途切れている。進んで行くと、何

年か前に来たときに見覚えのあるフィックスロープのある岩場で、ここでロープを出す。ビレイ点からトラバースして岩場上がる。岩場のトラバースで躊躇していると、相方の「ランナー取ったほうがいいよ！」との声。そうそう、久しぶりのアルパインで岩場にばかり目がいつっちゃってたよ…。フィックスロープにランナーを取り、思い切って一步踏み出す。その岩場を回りこみ、傾斜のあるルンゼ状を雪にステップを蹴りこみながら登っていく。ダケカンバでビレイ、一旦ロープを回収する。

さらに進むと、岩場が現れるが、ここは左に巻く。巻いたけど結局ロープを出して短い岩場を越える。時間がだいぶ押してきていることには気づいていたが、なぜか戻るという選択はなかった。



その次の草付+階段状の岩場もロープを出して進み、大天狗の基部へ。相方のリードで、ビレイ点からトラバースして行き、岩場を直上、右に回りこんでテラスへ。フォローでカムの回収に手こずり、あわや残置！？と冷や汗。ビレイ点から

雪の斜面を短く1ピッチトラバースしてロープを回収する。そこからは縦走路に向けて重い足を運ぶ。



時刻はもう3時ちかく、この時点で自分は、まだツルネの方へ予定どおり行動することや、時間切れで下りるのだったら真教寺尾根か県界尾根か…と、東面に下りることを考えていた。だから、相方が後ろから「行者に下りるのはどう？」と言ったときは、目からウロコな感じだった。遠望したところ、ツルネ方面にはトレースらしきものはない。地獄谷にテント装備を残置していくことには強い抵抗感を覚えたものの、一番現実的なのは行者小屋に下りることだった。暗くなっても行動できるのはそこしかない。

天狗尾根ではほとんど風はなかったが、やがてツルネ方面への縦走路の指導標が見え、進路をツルネとは反対の赤岳の方向へ取るとものすごい強風に吹かれた。その先、竜頭峰までは上らず（上がる気力もなく…）、細いルンゼを3つくらいトラバースして赤岳の登山道と合流。見る予定ではなかったけれど西面の馴染

みのある景色にフクザツな気分を味わいつつも反面、ものすごい安心感のなか、文三郎尾根を行者小屋へと下る。



行者小屋で登攀装備を解き、下り始めて30分くらいで日没、ヘッドライトでトレースのついた道を下り、無事、美濃戸口へ到着、タクシーで美し森の駐車場まで移動（10,000円！）した。



こちらの気分と関係なく、残照は美しい…

(タイム) 6:38 テント場～7:03 尾根に乗る～11:05 フィックスロープの所～15:18 天狗尾根終了～16:45 行者小屋～19:11 美濃戸口

一週間後… 装備回収

先週、出合小屋まで5時間くらいかかったため、朝早く出て清里へと向かう。しかし、先週とは違い、林道の雪からしてこちこちに凍っていて、さくさくと進むことができた。沢沿いに入ってから雪は締まり、あれほど渡渉に苦労したところもがっちり凍っていて気が抜けるほどにあっさりとデポ地まで着いてしまっ

た。野犬や通りがかりの登山者などに荷物を開けられていないか、この一週間心配のしどおしだったけれど、木の陰に先週と同じ状態の荷物を見たときはなんだか感動した。さっさと荷物をザックに詰めて撤収。戻る道、登ってくる人たちとすれ違う。どこへ行ってきたのかと不思議そうに尋ねられる。まあ、そうだろうな…。それにしてもいい天気だし、ちょっと羨ましく思いながら午前中のうちに駐車場に戻り、清泉寮を観光して帰路についた。

(タイム) 6:12 美し森⑩～8:49 デポ地～11:17 美し森⑩



真教寺尾根から見た天狗尾根 2006.04